



Data

監督・脚本：ホン・サンス

出演：キム・ヨンホ/パク・ウネ/
ファン・スジョン/イ・ソン
ギュン/キ・ジュボン/ソ・
ミンジョン/キム・ユジン/
チョン・ジヘ

👁️👁️ みどころ

“韓国のゴダール” “エリック・ロメールの徒弟” と評される、韓国の奇才ホン・サンス監督の作品をはじめて鑑賞。何とも言えないキャラのおじさんを主人公とした韓国初のブログ映画(?)、そしてウッディ・アレン監督を彷彿させるウィットに富んだ会話劇を堪能したい。それにしても、男女の恋のアバンチュールは興味深い。そして、その原動力は男のあくなきエッチへの願望? 「愛してる」という言葉が苦手な日本人と、婚活上級者向けの教科書として本作は最適!



こりゃ韓国初のブログ映画?

タイトルを見るとこりゃフランス映画! と思ってしまうが、本作はれっきとした韓国映画。しかも、08年ベルリン国際映画祭コンペティション部門で絶賛を浴び、韓国内でもさまざまな賞を受賞したらしい。また、1961年生まれの本・サンス監督はフランスをはじめヨーロッパ各国で“韓国のゴダール” “エリック・ロメールの徒弟” と評される奇才らしいが、残念ながら私は『気まぐれな唇』(02年)も『女は男の未来だ』(04年)も観ておらず、ホン・サンス監督作品を観るのは本作がはじめて。

日本ではのりピーこと酒井法子の覚醒剤の所持・使用事件が世間の注目を集め、薬物追放の気運が盛りあがっている。したがって、アメリカからの留学生に誘われてマリファナを吸ったことがばれ、警察に摘発されるのを恐れた国選画家ソンナム(キム・ヨンホ)が、妻を一人ソウルに残し、逃げるように韓国を離れ、かねてより憧れだったフランス・パリへやってきたという設定は、きわめてタイミングが悪い。もっとも、ソンナムの場合は覚醒剤ではなくマリファナだからオーケー? いやいや、そんなことはない。

映画冒頭、空港でさかんにタバコをふかすソンナムの姿が登場するが、その表情は不安でいっぱい。ソンナムはキ・ジュボン扮する宿主が経営する民宿に身を落ち着け男女8人の共同生活をスタートさせたが、当面することは何もないようだ。8月8日に空港に降り立った彼は、以降パリでどんなアバンチュールを？脚本をかねたホン・サンス監督は、パリでのソンナムのアバンチュール、というより夜毎妻のソンイン（ファン・スジョン）への電話で泣き言を並べながら、他方ではパリへ留学中の若く美しい画学生ユジョン（パク・ウネ）への恋のアプローチを強め、遂にユジョンをゲットする（？）恋模様を日付を追って描いていく。その意味では、本作は韓国初のブログ映画？



ストレートが一番？婚活の参考にも？

ソンナムの国選画家としての能力、レベルがどの程度かわからないが、マリファナを吸ったことが警察にばれるのを恐れて妻を残し一人パリに脱走するというソンナムの生きざまがそもそもダメ。そのうえ、毎夜電話で妻のソンインに泣きついてるソンナムの姿をみると、こんなダメ男がなぜ映画の主人公にと思うほどだ。ところが、そんな男に限ってコト女に関しては意外と強く、そのうえ運があるようだ。

パリに着いた5日後の8月13日にまちに出たソンナムがぱったりと出会ったのが、10年前に別れた恋人のミンソン（キム・ユジン）。もっとも、ソンナムは昔の恋人の顔をきれいにサッパリ忘れていて思い出さなかったからひどいもの。これにはミンソンもプライドがいたく傷つけられたらしく、その後ソンナムとミンソンとの関係は思いがけない展開へ。

他方、毎日ダラダラした生活を続けているソンナムを心配した宿主が紹介してくれたのが、留学中の画学生ヒョンジュ（ソ・ミンジョン）。こうなりゃ、芋づる式にお友達を紹介

してもらえるもので、ヒョンジュとルームシェアしているユジョンにソンナムは一目惚れ？さあ、ここからが本作の見モノだ。「奥さんがいる人なんてごめんだわ」と最初からピシャリとはねつけたユジョンに対する、ソンナムの執拗なアプローチとそのテクニックは？婚活に悩む今ドキの若者は、ソンナムのように「お前を抱いて横になりたい」などとストレートな表現を女性にぶつけることは到底できないはず。もちろん、それに対するユジョンの反応は「・・・張り倒してやりたいわ」だったが、それから後の展開は？あれほどソンナムのアプローチを拒否していたユジョンのその後の軟化(?)の様子をみると、女を口説くにはやはりストレートが一番。こりゃ、大いに婚活の参考に？



同時期に2人の女から妊娠を告げられたら？

本作ではソンナムが眠っているユジョンの足の指をなめるシーンなど、その後の展開をワクワクさせるようなシーン(?)が登場する。しかし、本作はそれ以上中年エロオヤジの期待や妄想に応えることはなく、サラリとしたもの。つまり、どこかうッディ・アレン監督作品と共通するウェットに富んだ会話劇がメインで、刺激的なセックスシーンは本作には全く登場しない。8月8日から始まったパリでのソンナムのアバンチュールは10月に至って終結を迎えるのだが、その時点におけるソンナムとユジョンの恋の進捗状況は？それが本作のメインだが、何とその時点でソンナムはユジョンから妊娠の報告を聞かされたからビックリ。

他方、ソンナムが急に帰国を決意したのはなぜ？それは妻のソンインからの電話で、パリへ逃走する直前のあの日のエッチで自分が妊娠した旨を告げられたため。つまり、色男

のソンナムは同時期に2人の女性から妊娠していると告げられたわけだ。巨大な大奥を持っていた徳川の将軍サマならともかく、現代において同時期に2人の女性から妊娠を告げられたら？さて、あなたにはそんな経験は？



最悪の事態も何とか

パリでのアバンチュールを終えて妻ソンインの元へ帰国した後の、ホン・サンス監督が描く本作のラストは興味深い。まず驚くのは、パリであれほどユジョンに対して「愛してる」とくり返していたソンナムが、韓国へ帰るや否や今度は妻のソンインに対して同じように齒の浮くような愛の言葉を並べたてること。「愛してる」と口に出すことは日本人男性が最も苦手とするところだが、本作をみてソンナムのそんな努力に学ばなければ。

それはともかく、男にとって最悪の場面は、エッチの最中しかもクライマックスの時に思わず目の前の女ではなく、別の女の名前を叫ぶこと。そんな場面が登場すれば、その後の大バトルは必至だ。またそれに次ぐ最悪の事態は、妻と一緒に眠っている時夢の中でみた別の女の名前を叫ぶこと。そんな場面が登場すれば、妻からたたき起こされたうえ、詰問されること必至だ。本作はラストに向けて、ちょっとわかりづらいシークエンスが登場する。それはソンナムがパリの画廊パーティーで出会った女性チョン・ジヘ（チョン・ジヘ）と浮気している物語。どうもソンナムは妻のソンインと眠っている最中にそんな夢をみたうえ、夢の中でジヘの名前を叫んだらしいから、さあ大変。ソンナムはたちまちソンインからたたき起こされ、厳しく詰問をされるが、さてソンナムはそれに対していかなる対応を？

2009（平成21）年9月4日記